

東日本大震災における「仙台市災害多言語支援センター」の取り組み vol.2

財団法人仙台国際交流協会

2011年3月11日に発生した大地震。(財)仙台国際交流協会(以下、SIRA)は、その日の夜から外国人被災者のために必要な情報を収集し、多言語化して提供する「仙台市災害多言語支援センター」(以下、支援センター)の運営を開始しました。(活動の詳細については『自治体国際化フォーラム8月号』記事「東日本大震災の外国人被災者支援～仙台市災害多言語支援センターの活動から」をご覧ください。)

国際協力団体が被災地で活躍

報道等でご存じのとおり、今回の震災では多くの国際協力団体が被災地で活躍しています。SIRAが運営する支援センターではCLAIRをはじめとする多くの団体から人的支援をいただきましたが(下記「参考」をご覧ください)、(独)国際協力機構東北支部(JICA東北)や(社)青年海外協力協会(JOCA)といった国際協力団体からも多くのご支援をいただきました。そのうち、JOCAからはスタッフが震災からわずか一週間後の3月18日から支援センターに駆けつけていただき、その後も支援センターを終了する4月30日までスタッフが交代しながら支援を続けてくださいました。



支援センターでJOCAスタッフ(赤い上着のお二人)を囲んでの集合写真

手動充電式ラジオの配布

また、団体どうしの連携によって外国人に向けた支援も行われました。そのひとつが、被災地の外国人住民への手動充電式ラジオの配布です。支援センターでは実に 1,000 台以上のラジオを外国人住民に無料配布しました。これは、(特活) オックスファム・ジャパンが自ら募った寄付金によって特注生産したラジオを、神戸を拠点に活動する(特活) 多言語センターFACIL が支援センターまで届けてくださったことによって実現したものです。ラジオには、ジャパン・フォー・サステナビリティの協力により、世界各地から寄せられた、応援のメッセージが添えられました。

当協会では日頃から多言語による防災情報番組を提供について Date fm (株式会社エフエム仙台) に協力し、外国人住民向けに災害時のラジオの有効性を伝えてきましたが、震災後は仙台市内の他のコミュニティラジオ局とも連携し、多言語による生活情報の提供を開始したところです。写真のシールをラジオに貼り付けて配布し、できるだけ多くの外国人住民に日頃からラジオに親しんでいただきたいと思います。



手動充電式ラジオ (写真：オックスファム・ジャパン提供)

参考：外部からの協力

(1) 翻訳協力

東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター、NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会、弘前大学社会言語学研究室学生チーム、東北大学国際文化研究科

(2) ラジオ収録・放送

特定非営利活動法人エフエムわいわい、エフエム仙台 (Date fm)、ラジオ 3、エフエムたいはく、fm いずみ

(3) 人材派遣

社団法人青年海外協力協会、近畿地域国際化協会連絡協議会、財団法人自治体国際化協会、独立行政法人国際協力機構東北支部、仙台市教育委員会